

シラバスデータ		
科目名	心理学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	心理学の理論を理解し、心理的支援力を高める。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	心理学を身近なものとしてとらえられるようにし、それを自身の生き方に活かしていけるようにすることを目標とし、 心理的配慮などを考慮した考え方もできるように学習する
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	視能訓練士としての心理学的なスキルと資質を身につける
授業担当者	土屋廣人	
実務家教員		
使用テキスト 参考文献	社会福祉学習双書 2024 心理学 心理学理論と心理的支援(全社協)	
評価方法	授業態度、出席率、テストによる総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	ガイダンス	心理学を学ぶ理由、心とは、他者理解のための自己理解
2	心理学の歴史と発展	学問としての心理学の発展と現代心理学の潮流
3	人の心理学的理解1	脳のニューロンと心の心理学的基盤
4	人の心理学的理解2	感覚と知覚、認知
5	人の心理学的理解3	学習と記憶、感情・動機づけ
6	発達1	知能、ピアジェの発達論
7	発達2	自我発達、発達課題(エリクソン等)
8	視能心理学の視点1	視覚の発達、視覚障害児・者の心理
9	視能心理学の視点2	障害受容、ストレスへの関わり
10	アセスメント	発達検査・性格検査・行動観察
11	カウンセリング1	受容・共感・傾聴の大切さ
12	カウンセリング2	カウンセリング技術
13	カウンセリング2	カウンセリング技術
14	今日の問題	虐待・体罰・いじめ・依存症
15	振り返り、まとめ	授業の振り返りを行い、学びの定着を図る

シラバスデータ		
科目名	視覚生理学Ⅰ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	眼の光学系、視覚伝導系、運動系からなる視覚系および電気生理について学び、視能訓練士として必要な知識を身につける。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	視覚は、眼の光学系・視覚伝達系及び目の運動系(眼球運動・瞳孔運動・調節・開閉運動)からなり、脳で統合される情報処理機構であることを統合的に理解し、視覚経路の生理・解剖、視覚生理学の基礎を学習する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・視力と網膜の関係について説明できる ・色の知覚、異常について説明できる ・視路と視野の関係を説明できる ・視野、視野異常について説明できる ・明順応、暗順応について説明できる
授業担当者	太田 陸	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学第3版(文光堂)	
評価方法	各単元試験や期末試験にて評価する	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	視覚生理の基礎	視覚生理の基礎について学ぶ。
2		視覚の成り立ちについて学ぶ。
3	視力・形態覚	視力・形態覚について学ぶ。
4		視力検査法について学ぶ。
5		視力の影響因子について学ぶ。
6	特殊な視力検査	対数視力、コントラスト視力、縞視力、小児視力について学ぶ
7	限界フリッカ	限界フリッカの仕組み、検査法について学ぶ
8	視野	視野検査について学ぶ。
9		視野異常について学ぶ。
10		静的視野と動的視野の違いを学ぶ。
11		視野の検査方法を学ぶ。
12		視野の検査方法を学ぶ。
13	光覚	光覚、光覚検査について学ぶ。
14	色覚	色覚、色覚検査について学ぶ。
15	期末試験と解答・解説	筆記試験と解答・解説を行う。

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	保育学		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	視能訓練士として、検査・訓練の対象である小児の特性を保育の面から理解する。	
学年	1年		
コース	－	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	視能訓練士は臨床の場で、乳幼児やその保護者と関わり、検査や訓練を行うことがある。そのため、乳幼児の具体的な発達や育ち、保育について学ぶ。また、現代の子どもを取り巻く環境を考察し、子どもに関する総合的な理解を深める。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	・保育とは何か、そして乳幼児の発達について理解する。 ・子どもの成長・発達に応じた支援や対応の仕方について理解する。 ・保育における社会環境の影響について考える。	
授業担当者	山本 佳郁代		
実務家教員	×	児童養護施設における保育士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	プリント配布		
評価方法	授業態度、出席率、課題、試験による総合評価とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	オリエンテーション	保育学を学ぶ意義	
2	保育とは	保育とは／保育の基盤としての子ども観／子どもの権利と人権	
3	子どもを育てる	愛着と自律／親の関わりと人格形成	
4	乳幼児の発達①	乳幼児期の発達課題と特徴について(0歳児・1歳児・2歳児)	
5	乳幼児の発達②	乳幼児期の発達課題と特徴について(3歳児・4歳児・5歳児)	
6	視覚支援について	固視目標アイテム制作	
7	幼稚園実習事前指導	第一ひかり幼稚園実習に向けて／幼稚園・保育園・認定こども園の制度と機能について	
8	幼稚園実習	第一ひかり幼稚園実習(視力検査)	
9	事後指導	第一ひかり幼稚園実習の振り返り／子どもの実際と今後の課題	
10	子どもの健康	基本的な生活習慣の形成とその意義について	
11	子どもに関わる諸問題について①	子どもを取り巻く社会の変化と諸問題について	調べ学習(グループワーク) ※専門職として意識できること
12	子どもに関わる諸問題について②	子どもを取り巻く社会の変化と諸問題について	調べ学習(グループワーク) ※専門職として意識できること
13	子どもに関わる諸問題について③	子どもを取り巻く社会の変化と諸問題について	調べ学習→発表準備 ※専門職として意識できること
14	まとめ	子どもを取り巻く社会の変化と諸問題について	発表／試験対策
15	定期試験	試験	

シラバスデータ		
科目名	視能検査学実習Ⅰ	
年度	2024年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視覚検査の基礎である様々な視野検査について学ぶ
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	視覚機能検査機器の原理と操作を学習する。グループでの演習により検査・測定方法の基礎理論と基本的技術の習得を目標とする。また、障害を総合的に検出することを演習し、技術を習得する。適宜演習課題を指示する。
授業回数	30回	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	各種視覚機能検査機器の原理の概略が説明できる。 機器を用いて検査・測定ができる。 総合的に障害を検出できる。
授業担当者	太田 陸 青木 未来	
実務家教員	○	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、視能学エキスパート視能検査学	
評価方法	授業態度、出席率、実技試験、筆記試験による総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	Humphrey視野計 Goldmann視野計 Amslerチャート Mチャート 中心フリッカー コントラスト視力 (講義)	Aグループ: Humphrey視野計、Goldmann視野計 Bグループ: Amslerチャート、Mチャート、中心フリッカー、コントラスト視力
2		
3		
4		
5		
6		
7		Aグループ: Amslerチャート、Mチャート、中心フリッカー、コントラスト視力 Bグループ: Humphrey視野計、Goldmann視野計
8		
9		
10		
11		
12		
13	Humphrey視野計 Goldmann視野計 Amslerチャート Mチャート 中心フリッカー コントラスト視力 (実技演習)	ペアでお互いの検査を行う。 ※眼科外来を想定しての実習となるため、常に言葉遣い・患者説明等しっかり行うこと。
14		
15		
16		
17		
18		ペアでお互いの検査を行う。 ※眼科外来を想定しての実習となるため、常に言葉遣い・患者説明等しっかり行うこと。 実技チェック ①Goldmann視野計、Humphrey視野計 ②Amslerチャート、Mチャート、中心フリッカー
19		
20		
21		
22		
23		ペアでお互いの検査を行う。 ※眼科外来を想定しての実習となるため、常に言葉遣い・患者説明等しっかり行うこと。 <u>27コマ目の終了時にレポート提出(レポート未提出の場合、実技試験の受験不可)</u>
24		
25		
26		
27		
28	筆記試験・まとめ	筆記試験を行う。その後まとめ。
29	実技試験・講評	実技試験を行う。その後講評。
30		

シラバスデータ		
科目名	生理光学実習 I	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視力検査、他覚的屈折検査、調節機能検査の基本的な測定方法や検査条件を理解することを目的とする。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・グループでの演習で、裸眼視力検査や調節機能検査の方法について学習する。 ・他覚的屈折検査の測定と結果の読み取りについて学習する。
授業回数	30回	
授業形態	実習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・球面矯正を行うことができる。 ・レンズメータで眼鏡レンズの度数を測定することができる。 ・調節機能検査を行って調節力を求めることができる。
授業担当者	太田 陸 青木 未来	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、屈折異常とその矯正 改訂第7版(金原出版)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)	
評価方法	筆記試験、実技試験による総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	球面矯正(復習) 調節機能検査(講義)	Aグループ:球面矯正 Bグループ:調節機能検査
2		Aグループ:調節機能検査 Bグループ:球面矯正
3		
4		
5・6	乱視表(講義) クロスシリンダー(講義)	Aグループ:乱視表を用いた屈折矯正 Bグループ:クロスシリンダーを用いた屈折矯正
7・8		
9・10		Aグループ:クロスシリンダーを用いた屈折矯正 Bグループ:乱視表を用いた屈折矯正
11・12		
13・14		
15・16		
17・18	乱視表(実技) クロスシリンダー(実技) 調節機能検査(実技)	ペアで互いの検査を行う。 ※常に眼科外来を想定しての実習となるため、言葉使い、患者説明等しっかり行うこと。 実技チェック ①クロスシリンダー <u>28コマ目までにレポート提出(レポート未提出の場合、実技試験の受験不可)</u>
19・20		
21・22		
23・24		
25・26		
27・28		
29	筆記試験・解答解説	・筆記試験と解答解説を行う。
30・31	実技試験・講評	・実技試験と講評を行う。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	実習前教育		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	現場で遭遇するであろう問題を考え、臨地実習に備える。 臨地実習を通して、視能訓練士の役割を理解する。	
学年	1学年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	車いす体験、白杖を用いたロービジョン体験	
授業回数	2回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	臨地実習36時間と併せて1単位	患者誘導についての知識を学び、現場で実践できる。	
授業担当者	太田 陸		
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献			
評価方法	臨地実習(指導者評価・レポート・出席率)とで評価する		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	臨地実習準備	車いす体験を通して現場で求められる誘導を考える。	
2		ロービジョン体験(白杖)を通して現場で適切な支援を考える。	

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	基礎神経眼科		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	・視能矯正に必要な基礎的な解剖、神経眼科的疾患の理解を深める	
学年	1年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	視路・眼球運動系・対光反射経路について関連する神経の構造と機能について理解し、関連疾患についても学ぶ。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	視路と視野の関係を理解し、図示できる。 脳神経と支配領域を理解し、説明できる。 外眼筋と支配神経、働きについて理解し、説明できる。 対光反射経路と自律神経について理解し、説明できる。	
授業担当者	青木 未来		
実務家教員	○	総合病院と眼科クリニックにおける視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、神経眼科学を学ぶ人のために 第4版（医学書院）		
評価方法	授業態度、出席率、小テストと定期試験による総合評価とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	神経眼科の基礎	神経の構造・機能	
2		シナプス、神経伝達物質	
3		中枢神経の構造・機能（脳・脊髄）	
4		末梢神経の構造・機能（脳神経・脊髄神経）	
5		自律神経について（交感神経・副交感神経）	
6	眼科の脳神経	動眼神経・滑車神経・外転神経	
7	眼球運動系	眼球運動のしくみ	
8	外眼筋	外眼筋について	
9	眼の自律神経	眼の自律神経について	
10	瞳孔	瞳孔について	
11	視神経	視神経について	
12	視路	視路について	
13	眼球運動	眼球運動の障害について	
14	視路と視野	視路の障害と視野について	
15	定期試験	筆記試験	

シラバスデータ		
科目名	生理光学Ⅰ	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視能訓練士として必要な屈折矯正における調節、眼鏡、コンタクトレンズなどの知識を身につけることを目的とする。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	眼球の光学的な役割と理解を深める。屈折矯正に必要な調節、眼鏡、コンタクトレンズなどについて学習する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・眼球光学系を説明できる ・近視、遠視、乱視の定義と症状を説明できる ・不同視の定義と症状を説明できる ・老視の定義と症状を説明できる
授業担当者	太田 陸	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学(文光堂)、屈折異常とその矯正(金原出版)、眼光学の基礎(金原出版)	
評価方法	筆記試験で評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	眼球光学	・眼球の構造や関連する数値について学ぶ。
2	レンズの光学	・レンズの種類(球面レンズ、円柱レンズ)について学ぶ。 ・レンズの収差について学ぶ。
3	屈折異常Ⅰ	・遠視、近視について学ぶ。
4	屈折異常Ⅱ	・乱視について学ぶ。 ・不同視、不等像視について学ぶ。
5	クロスダイアグラムⅠ	レンズ式とクロスダイアグラムについて学ぶ。
6	クロスダイアグラムⅡ	クロスダイアグラムと乱視の分類について学ぶ。
7	他覚的屈折検査Ⅰ	・他覚的屈折検査について学ぶ。 ・オートレフラクトメータとケラトメータの結果の読み方について学ぶ。
8	他覚的屈折検査Ⅱ	・検影法の測定方法について学ぶ。 ・検影法を用いて屈折度を求める。
9	自覚的屈折検査Ⅰ	・視力について学ぶ。 ・球面レンズを用いた屈折矯正について学ぶ。
10	自覚的屈折検査Ⅱ	円柱レンズを用いた屈折矯正について学ぶ。
11	スタームのコノイド	スタームのコノイドの作図について学ぶ。
12	調節Ⅰ	・模型眼の主な数値と調節の光学的変化について学ぶ。 ・調節機能、調節検査について学ぶ。
13	調節Ⅱ	・老視について学ぶ。 ・調節力の計算を行い、明視域を求める。
14	眼鏡・コンタクト	・眼鏡レンズとコンタクトレンズの種類について学ぶ。
15	筆記試験・解答解説	筆記試験と解答解説を行う。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	基礎光学		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	・光に関する基本的な知識、現象、特性等を機能的に学習する。	
学年	1年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	・光の波としての性質が、屈折や回折などの現象を引き起こすことを理解し、その規則性の基礎的な知識を得ることができる。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	・レンズについて、つくり、働きなどの光学的な特性を理解する。	
授業担当者	太田 陸		
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学(文光堂)、屈折異常とその矯正(金原出版)、眼光学の基礎(金原出版)、視能学エキスパート 光学・眼鏡(医学書院)		
評価方法	筆記試験で評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	光の基本性質	光(可視光線)、周波数、波長について学ぶ。	
2		明るさの単位や光安全性について学ぶ。	
3	幾何光学・波面光学	幾何光学と波面光学について学ぶ。	
4	反射・屈折	反射・屈折の法則について学ぶ。	
5		臨界角や全反射について学習する	
6	プリズム	プリズムジオプトリーについて学ぶ。	
7	レンズ・ミラー	・レンズの主要点、焦点距離、収差について学ぶ。 ・ミラーについて学ぶ。	
8	結像	凸レンズによる結像について学ぶ。	
9		凹レンズによる結像について学ぶ。	
10		像の性質や倍率について学ぶ。	
11		レンズを2枚使った時の結像について学ぶ。	
12	屈折異常とレンズ	近視のレンズ矯正について学ぶ。。	
13		遠視のレンズ矯正について学ぶ。。	
14	まとめ	定期試験前のまとめと復習を行う。	
15	定期試験	定期試験と解説	

シラバスデータ		
科目名	公衆衛生学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	公衆衛生学の基本的事項を理解するとともに視能訓練士が果たすべき役割について考える力を培うことを目的とする。
学年	1年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	公衆衛生学は、社会や集団を対象にした医学である。個人の健康を対象にした臨床医学に対し、社会全体から心身の疾病の予防や健康増進に係わる。保健医療、社会福祉、環境保全など多岐にわたる内容から構成されている。 基本的事項を理解するとともに保健、福祉、医療従事者の一員として果たすべき役割について考える力を培うことを目標とする。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・地域で生活する人々の疾病予防及び健康増進のための環境整備や、健康管理を地域全体の視点で捉えるという公衆衛生的な考え方を身につける。 ・医療や社会福祉制度についての概要がわかる。 ・健康・疾病・障害と生活の基礎的な概念を習得する。
授業担当者	荒尾 浩子	
実務家教員	○	保健師及び看護学校講師としての実務経験
使用テキスト 参考文献	公衆衛生がみえる2024-2025(MEDIC MEDIA)	
評価方法	授業態度、出席状況およびレポート、小テストの成績で総合評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1,2	公衆衛生の概念・健康の概念	公衆衛生、健康の概念について学ぶ。
3,4,5	保健統計・疫学	健康・疾病・行動にかかわる統計資料について学ぶ。
6,7	保健、医療、福祉の制度、地域保健①	保健、医療、福祉の制度について学ぶ。
8,9	環境保健	環境保健について学ぶ。
10,11	感染症・食中毒	感染症と食中毒について学ぶ。
12	保健、医療、福祉の制度、地域保健②	保健、医療、福祉の制度について学ぶ。
13,14	成人保健・母子保健・学校保健	成人保健、母子保健、学校保健について学ぶ。
15	産業保健、全体のまとめ	産業保健について学ぶ。全体のまとめを行う。

シラバスデータ		
科目名	基礎視能矯正学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視能矯正の基礎を理解するために必要な知識を習得する。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	パナムの融像感覚圏、正常両眼視機能の成立条件と発達、網膜対応の種類、内斜視、外斜視について学ぶ。 外眼筋の特徴、作用、眼球運動の法則、小児視力の特徴、視力の発達、弱視について学ぶ。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	正常両眼視、視力の発達について説明できる。 基本となる斜視の病因、臨床所見、鑑別に必要な検査を挙げることができる。
授業担当者	鈴木　ほまれ	
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、視能矯正学 第3版(金原出版)	
評価方法	中間試験と定期試験(筆記試験)で評価する。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	眼球運動	外眼筋の種類と走行
2		外眼筋の作用と神経支配
3		眼球運動の法則
4		
5		輻湊と開散
6		調節と輻湊(Ac/A比)
7		
8	両眼視機能	正常両眼視機能の定義と種類
9		正常両眼視機能の成立条件
10		異常な両眼視機能(複視)
11		異常な両眼視機能(網膜対応異常、抑制、混乱視)
12	視力の発達	視力の発達と感受性期
13		小児視力の特徴
14	弱視	弱視の種類と原因
15		
16		
17	心因性視覚障害	心因性視覚障害の原因と臨床所見
18	中間試験と解説	筆記試験にて知識の確認と解答解説
19	斜視の定義	斜視の定義
20	内斜視	乳児内斜視と後天基礎型内斜視の病因、臨床所見
21		調節性内斜視の種類と病因、臨床所見
22		
23		
24		その他の内斜視の種類と病因、臨床所見
25	外斜視	間欠性外斜視の分類と病因、臨床所見
26		
27		その他の外斜視の種類と病因、臨床所見
28		
29	偽斜視	偽斜視の要因
30	定期試験	筆記試験にて知識の確認

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	教育学		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	教育の基本概念、思想、歴史について学ぶ 人間の発達と教育の関係について学ぶ	
学年	1年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	教育の基本的概念、理念、歴史及び思想について学ぶ。さらに、人間の発達過程において教育が不可欠であることを理解する。	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）	
取得単位数	2単位	人間の成長発達にとって、教育が重要であることを理解する 医療従事者として生涯にわたり学び続ける必要性を理解する	
授業担当者	後藤明子		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	適宜資料を提示する。		
評価方法	提出物(20点)、授業態度(20点)、テスト(60点)による総合評価とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業ガイダンス	授業ガイダンス 教育学について	
2	教育とは何か	教育の意義 定義	
3	こどもの発達と教育	「発達」概念の教育的意味	
4	青年期の発達課題	青年期の教育問題と防衛機能	
5	青年期の発達課題	大人の愛着障がいとは	
6	発達障害について	ASDについて	
7	発達障害について	AD/HD・LDIについて	
8	子どもの権利	子どもの権利条約について 子どもの権利保障を考える	
9	道德教育	道德を伝える絵本について考える	
10	教育に関する時事問題	新聞から教育問題を読み取る 新聞より情報収集	
11	教育に関する時事問題	新聞から教育問題を読み取る 内容の整理・発表 / 翌週授業ガイダンス	
12	教育を深める	視能訓練士としてこれから学ぶ皆さんへ ～教育新聞の作成～ 構想を練る・取材・記事収集	
13	教育を深める	視能訓練士としてこれから学ぶ皆さんへ ～教育新聞の作成～ 構想を練る・取材・記事収集	
14	教育を深める	視能訓練士としてこれから学ぶ皆さんへ ～教育新聞の作成～ 取材・記事収集・発表準備	
15	教育を深める	視能訓練士としてこれから学ぶ皆さんへ ～教育新聞発表会／終了後試験	

シラバスデータ		
科目名	ゼミナール1	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	マナー検定や臨地実習の準備を行うことで、学生生活への不安を解消する。 また、医療人として必要な資質を身につける。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期・後期	専門教科を学ぶ上での自分に合った効果的な学習方法を考える。また、眼科領域での接遇、感染症、点眼薬などの基本的知識を習得することで臨地実習に備える。
授業回数	30回	
授業形態	演習	授業終了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	目指す将来像を自分の言葉で説明できる。 臨地実習で求められる知識、身なり、マナーを理解し、実践できる。
授業担当者	太田 陸	
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	臨地実習の手引き、国家試験過去問題	
評価方法	課題提出と実習前試験(筆記)とで評価する	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	学生の手引き	学生の手引きの読み合わせを行い、今後の学校生活に備える。
2	効果的な学習方法	自分の勉強方法を振り返り、学ぶための準備を行う。
3		自身の認知特性を把握し、効果的な学習方法を考える。
4		リーディングスキルテストを行い、読解力の重要性を理解する。
5	眼科測定対策	・幼稚園の眼科測定に向けて検査の方法を学ぶ。 ・小児に対する検査時の注意点を考える。
6	レポート課題対策	・レポート課題の書き方について学ぶ。 ・参考文献の引用や記載法について学ぶ。
7		・レポートの作成し、改善点を考えることで学内や臨地実習のレポート課題に備える。
8	眼科測定対策	・眼科測定当日の流れを確認する。 ・測定時の役割決めを行う。
9	眼科測定振り返り	幼稚園での眼科測定を振り返り、改善点を考える。
10	臨地実習準備	眼科領域での感染症と点眼薬の基本知識を学ぶ。
11		・代表的な疾患とその症状について学ぶ。 ・眼科で用いる略語について学ぶ。
12		医療現場での適切な接遇や年齢に応じた接遇を考える。
13		実習の手引きの読み合わせを行い、実習の目的を考える。
14		実習病院の特色を理解し、実習の抱負を考える。
15		個人調書を完成させる。
16		・検査の見学中に注目するポイントを考える。 ・臨地実習記録の書き方について学ぶ。
17		・年齢に応じた対応の違いについて考える。 ・臨地実習記録の書き方について学ぶ。
18		・実習先への挨拶について学ぶ。 ・ロールプレイを行い、実習先への電話に備える。
19		先輩から臨地実習について学ぶ。
20		実習前試験(筆記)にて臨地実習に向けての留意点を理解しているかを確認する。
21		・臨地実習に向けての決意表明を行う。 ・実習の流れや留意点の最終確認を行う。
22	臨地実習振り返り	臨地実習の振り返りをクラスで共有し次年度の課題を見つける
23	マナー検定準備	過去問題から必要な知識を確認する
24	マナー検定準備	過去問題から必要な知識を確認する
25	解答・解説準備	国家試験過去問の解答・解説の作成方法について学ぶ。
26	マナー検定準備	過去問題から必要な知識を確認する
27	解答・解説作成	国家試験過去問の解答・解説を作成する。
28	マナー検定準備	過去問題から必要な知識を確認する
29	マナー検定準備	過去問題から必要な知識を確認する
30	国家試験対策支援	春季課題の配布、まとめ方について

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	精神衛生学		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	医療人として必要な生命現象の知識と自己の健康のセルフコントロールができるようになる。 また、精神障害の予防や保護・治療のほか、精神的健康の維持・促進を目的とする学問、およびそのための実践活動を学ぶ。	
学年	1		
コース		授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	精神衛生に関する基本的知識を学ぶ。また、自らの健康と疾病の予防についても理解を深める。	
授業回数	15		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数		・自分自身の健康に関心を持ち、理解を深める。 ・医療従事者として、人々の健康増進や健康回復を支援するための基礎知識を修得する。 ・利用者・患者の心理を学ぶ。	
授業担当者	三嶋秀子		
使用テキスト 参考文献	ストレスとこころの健康 (ナカニシヤ出版) 他、プリント、動画活用。		
評価方法	授業態度、出席状況および学期末試験の成績で総合評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業の導入	授業概要説明 健康とは	
2	ストレスについて	ストレスとは	
3	ストレスについて	ストレス反応	
4	ストレスについて	ストレス(男女差)	
5	ライフサイクル	ライフサイクルとは	
6	ストレスについて	ストレスとの上手な付き合い方	
7	精神機能	精神機能と脳の構造	
8	こころの不健康	精神疾患と精神障害	
9	こころの不健康	統合失調症とうつ病等	
10	こころの不健康	認知症と高齢者のこころの世界	
11	患者のこころ	障害の受容と死の受容	
12	健康への予防的アプローチ	健康への予防的アプローチとカウンセリング	
13	健康への予防的アプローチ	カウンセリングとコミュニケーション	
14	国家試験対策	国家試験で出題された問題について	
15	試験	試験	

シラバスデータ		
科目名	眼科基礎数学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・専門科目の数学的処理をスムーズに理解し、習得するために、数学の基礎力とその応用を養う学習を行う。
学年	1学年	
コース	－	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・基本である数の意味、四則演算などを復習し比の問題、三角関数などを学習する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・専門科目を学ぶ上でそれらの基礎となる算数・数学を復習し理解する。
授業担当者	青木 未来	
実務家教員	○	総合病院と眼科クリニックにおける視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	レジュメ	
評価方法	授業態度、出席率、筆記試験による総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	復習	中学、高校の復習
2	数学の基礎	四則演算、小数・分数の計算
3		単位換算について
4	平方根	平方根について
5	方程式	文字式・一次方程式について
6	三角比	三角比について
7	指数・対数	指数・対数について
8	眼科で使われる式	レンズ度数と焦点距離について
9		視角と視力について
10		拡大率について
11		眼科で使われる式の再確認
12	統計	統計について
13		統計について
14	総復習	わからないところを再確認する
15	定期試験と解答解説	定期試験にて知識の確認・解答解説

シラバスデータ		
科目名	視能矯正学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	基礎視能矯正を基に筋原性斜視、機械的斜視などの特殊斜視の知識の習得を目指す。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	筋原性斜視、機械的斜視、その他の斜視の臨床所見、鑑別に必要な検査を学ぶ。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	筋原性斜視、機械的斜視、その他の斜視のそれぞれの種類を挙げ、その発生機序、臨床所見を説明できる。また、診断に必要な検査を上げることが出来る。
授業担当者	鈴木 ほまれ	
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、視能矯正学 第3版(金原出版)	
評価方法	定期試験(筆記試験)で評価する	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	筋原性斜視	重症筋無力症、慢性進行性外眼筋麻痺の鑑別と病因、臨床所見について学ぶ
2		甲状腺眼症、外眼筋炎の鑑別と病因、臨床所見について学ぶ
3		固定内斜視、sagging eye syndromeの鑑別と病因、臨床所見について学ぶ
4		Brown症候群の病因、臨床所見について学ぶ
5		外眼筋線維症の病因、臨床所見について学ぶ
6	機械的斜視	眼窩壁骨折の病因、臨床所見について学ぶ
7	まとめ	筋原性斜視と機械的斜視のまとめ
8		
9	その他の斜視	Duane症候群の病因、臨床所見について学ぶ
10		交代性上斜位の病因、臨床所見について学ぶ
11		AV型斜視の病因、臨床所見について学ぶ
12		
13		微小斜視の病因、臨床所見について学ぶ 診断に必要な検査(4┐基底外方試験、網膜対応検査、立体視検査)を体験する
14		
15	定期試験と解説	筆記試験にて知識の確認と解答解説

シラバスデータ		
科目名	視器の解剖生理・病理学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	視器の解剖・生理・病理学の基礎を習得する。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期・後期	眼球ならびに眼瞼・外眼筋・涙器などの解剖・生理・病理について学習し、眼科学の基本を習得する。
授業回数	30回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	4単位	眼球周辺の付属器の機能を知って、眼球が感覚器として維持している仕組みを理解する。視覚は眼と脳とが密接に関係をもちながら機能していることが判断できる。
授業担当者	星野 貴大	光を透過させる眼球内容物について把握できる。眼科疾患の病態を解剖・生理学の知識と結びつけて理解できる。
実務家教員	○	総合病院における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂) 標準眼科学 第14版(医学書院)	
評価方法	中間試験、期末試験による総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1・2	眼球の解剖・生理・病理	視覚器の構成について学ぶ
3・4		角膜・強膜の解剖・生理、角膜・強膜疾患について学ぶ
5・6		ぶどう膜の解剖・生理、ぶどう膜疾患について学ぶ
7・8		房水・隅角の解剖・生理、緑内障について学ぶ
9・10		水晶体の解剖・生理、眼圧、水晶体疾患について学ぶ
11・12		硝子体・網膜の解剖・生理、網膜疾患について学ぶ
13・14		網膜の構造と特殊部位、黄斑部疾患について学ぶ
15	中間試験と解答・解説	筆記試験と解答・解説を行う
16	眼球付属器の解剖・生理・病理	眼瞼の解剖・生理、眼瞼疾患について学ぶ
17・18		結膜・涙器の解剖・生理、結膜・涙器疾患について学ぶ
19・20		外眼筋の解剖・生理・作用について学ぶ
21・22		眼窩の解剖について学ぶ
23・24	視神経・視路 眼球血管系の解剖	視神経の解剖・生理について学ぶ
25・26		視路と血管系の解剖・生理、網膜血管病変について学ぶ
27・28		眼窩先端部の解剖・疾患について学ぶ
29	視器の発生	眼の発生、先天異常について学ぶ
30	期末試験と解答・解説	筆記テストと解答・解説を行う

シラバスデータ			2025/4/1
科目名	現代倫理		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	全学科	本学の建学の精神・校訓・教育方針を具現化するための授業。 倫理を基本とした全人教育としての本科目を履修することにより、社会人としての心構え、グローバルな教養を身に付け、有意な人材となることを目指す。	
学年	1年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	通年	社会におけるさまざまな規範の根拠について、哲学の誕生から宗教の発展、現代の動向を講義や演習、グループワークを通して学ぶ	
授業回数	30回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	4単位	この授業を学ぶことにより、倫理学の基本的な考え方を身につけ、自己実現を果たすために自分が社会にどのような価値を与えられるかを考え、自己が成長を実感できるようになることを目指す。	
授業担当者	齋藤 照安		
実務家教員	○		
使用テキスト 参考文献	参考資料: 本学「学生の手引き」 CANジャーナル(本学機関誌)、「現代の倫理」(山川出版社)、「ディープな倫理」、「倫理愛の構造」(東京大学出版会)、オリジナルプリント		
評価方法	前期・後期の試験結果、授業態度、出欠状況を加味した上で、学生の手引きに基づいて評価する。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	授業「現代倫理」の趣旨	倫理、道徳、哲学を学ぶ意義	
2	日本の道徳教育と問題点	日本の道徳教育と問題点	
3	倫理の意味	建学の精神、倫理の意味	
4	人間としての自覚	生きがい・モラリストの人間関係	
5	古代ギリシャの哲学	タレス、ソクラテス、プラトン、アリストテレス	
6	イギリス経験論と大陸合理論	ベーコン、デカルト、カント	
7	ドイツ哲学の全盛期	ヘーゲル、ショーペンハウエル、ニーチェ	
8	現代世界への挑戦	ダーウイン、マルクス、デューイ、サルトル	
9	古代中国の思想家	諸子百家、孔子、孟子	
10	老荘思想	老子(自然の道) 莊子(自由の精神)	
11	日本の経営者(1)	松下幸之助 日本式経営と哲学の創出	

コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
12	日本の経営者(2)	稲盛和夫 日本航空を再生させた「フィロソフィ」と「アメーバ経営」
13	日本の経営者(3)	鈴木敏文 「ブレない視点」をもつ、「シンプル思考」に徹する、心を揺さぶる「伝え方」
14	前期のまとめ	1回目から8回目
15	前期のまとめ	9回目から13回目
16	読書のすすめ	読書のすすめの考え方
17	キリスト教	キリスト教の開祖(イエス・キリスト)
18	自身の倫理観を見つめる	童門冬二著PHPより「品格と風土」を読み、考えをまとめる
19	イスラーム教	イスラーム教の開祖(ムハマンド)
20	仏教	仏教の開祖(ブッタ)
21	倫理の発展	現代社会に求められる倫理学 朱子・墨子(戦争否定論)
22	戦争と平和(1)	日本の歩んだ道
23	戦争と平和(2)	戦争後の日本の思想
24	戦争と平和(3)	社会契約説
25	奉仕とボランティア	奉仕活動の意味
26	社会学の理念	社会学とはなにか
27	人間関係について (1)	若者にとっての人とのつながり
28	人間関係について (2)	人間関係によるストレス
29	社会をつくる 家族の絆とは何か	現代社会と社会運動 親子の関係、核家族化
30	後期のまとめ	17回目から29回目のまとめ

シラバスデータ			
科目名	視能矯正学実習Ⅰ		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	視能矯正に必要な固視検査と眼位検査を学ぶ。	
学年	1学年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	後期	固視検査の種類・手技とともに、正常と異常を学ぶ。 大型弱視鏡、遮閉試験の検査目的・対象・条件・手技を学ぶ。	
授業回数	31回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2単位	症例に合わせて眼位検査を選択し、定性・定量ができる。	
授業担当者	鈴木　ほまれ 村上　綾		
実務家教員	○	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、視能矯正学 第3版(金原出版)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)		
評価方法	定期試験(筆記試験・実技試験)で評価する		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	固視検査(講義) 眼位検査(講義)	Aグループ: 固視検査(直像鏡・コージナートル) Bグループ: 間接的固視検査法、Hirschberg法、Krimsky法	
2			
3		Aグループ: 間接的固視検査法、Hirschberg法、Krimsky法 Bグループ: 固視検査(直像鏡・コージナートル)	
4			
5			
6		Aグループ: 大型弱視鏡 Bグループ: Hirschberg法、Krimsky法、遮閉試験	
7			
8			
9			
10		Aグループ: Hirschberg法、Krimsky法、遮閉試験 Bグループ: 大型弱視鏡	
11			
12			
13	固視検査(実技練習) 眼位検査(実技練習)	ペアで互いの検査を行う。 ※常に眼科外来を想定しての実習となるため、言葉使い、患者説明等をしっかり行うこと。	
14			
15			
16			
17			
18			
19		ペアで互いの検査を行う。 ※常に眼科外来を想定しての実習となるため、言葉使い、患者説明等をしっかり行うこと。 実技チェック	
20		Hirschberg法、Krimsky法、遮閉試験 1人15分を目安	
21			
22			
23			
24			
25		ペアで互いの検査を行う。 ※常に眼科外来を想定しての実習となるため、言葉使い、患者説明等をしっかり行うこと。 29コマ目の開始時にレポートを提出(レポートが未提出の場合は実技試験は受験不可となります。)	
26			
27			
28			
29		実技試験	実技試験にて実技の確認、講評
30			
31		定期試験	筆記試験にて知識の確認

シラバスデータ		
科目名	視能検査学基礎演習	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	生体計測と視力検査、他覚的屈折検査の基本的な測定方法や検査条件を理解することを目的とする。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	前期	・グループでの演習で、生体計測や裸眼視力検査の方法について学習する。他覚的屈折検査の測定と結果の読み取りについて学習する。
授業回数	15回	
授業形態	演習	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	・生体計測を行うことができる。 ・裸眼視力の測定及び結果の記載をすることができる。 ・他覚的屈折検査の結果からクロスダイヤグラムを記載することができる。
授業担当者	太田 陸 永井 理一郎	
実務家教員	○	診療所における視能訓練士としての実務経験
使用テキスト 参考文献	視能学 第3版(文光堂)、屈折異常とその矯正 改訂第7版(金原出版)、眼科検査ガイド 第3版(文光堂)	
評価方法	筆記試験、実技試験による総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	実習室の使い方 生体計測(講義)	・実習室の使い方について学ぶ。 ・生体計測(瞳孔間距離、眼球突出、瞼裂幅、眼瞼挙筋機能、瞳孔径)を測定する。
2	裸眼視力Ⅰ(講義)	・0.1以上の視力検査(字づまり視力)について学ぶ。 ・検査結果の記載法について学ぶ。
3	裸眼視力Ⅱ(講義)	・0.1未満の視力検査(字ひとつ視力)について学ぶ。 ・0.01未満の視力検査(指数弁、手動弁、光覚)について学ぶ。
4	裸眼視力Ⅲ(講義)	・小児の健診における視力検査について学ぶ。
5	球面矯正(講義)	・球面レンズを用いた屈折矯正について学ぶ。 ・矯正視力の結果の記載について学ぶ。
6		
7	他覚的屈折検査(講義)	・オートレフラクトメータ、ケラトメータ、フォトスクリーナーを測定し、結果を読み取る。 ・球面レンズと円柱レンズの作用を理解し、さらにレンズ式を記載する。
8	レンズメータ(講義)	・単焦点レンズの度数測定について学ぶ。 ・眼鏡度数の結果の記載について学ぶ。
9		
10	生体計測(実技) 裸眼視力(実技) 球面矯正(実技) 他覚的屈折検査(実技)	ペアで互いの検査を行う。 ※常に眼科外来を想定しての実習となるため、言葉使い、患者説明等しっかり行うこと。
11		
12		
13		
14	実技試験・講評	・実技試験とその講評を行う。
15	筆記試験・解答解説	・筆記試験と解答解説を行う。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	解剖生理学		
年度	2025年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	人体の構造と機能について、解剖・生理を学ぶ	
学年	1年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	眼科を学ぶ基礎知識として、正常な人体の働きを知り、基本的な疾患の理解する	
授業回数	15回		
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	2	眼科を学ぶ基礎として、運動器(筋、骨格)と神経系の各部位の名称や相互関係・構造について理解している	
授業担当者	小林 涼		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	からだが見える 人体の構造と機能(MEDIC MEDIA)、看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能1 (医学書院)		
評価方法	授業態度、出席率、定期試験による総合評価とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	総論	解剖生理の基礎について学ぶ	
2	循環器	心臓と血管の基礎について学ぶ	
3	呼吸器	肺と呼吸について学ぶ	
4	腎泌尿器	腎臓と膀胱について学ぶ	
5	消化管	胃腸について学ぶ	
6	肝臓・胆管・膵臓	肝臓、胆管、膵臓について学ぶ	
7	内分泌	代表的なホルモンについて学ぶ。	
8	運動器	代表的な骨と筋肉について学ぶ。	
9	神経総論	基本的な神経の分類について学ぶ。	
10	神経各論	中枢神経・末梢神経について学ぶ。	
11	感覚器	眼・耳について学ぶ	
12	生殖器	男性器・女性器について学ぶ	
13	成長	小児について学ぶ。	
14	血液	血液に含まれる細胞や物質について学ぶ。	
15	筆記試験	筆記試験を行う。	

シラバスデータ		
科目名	一般内科学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	人体の構造、生理機能、病気のメカニズムなどの医学を学ぶ。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	人体の構造、生理機能、病気のメカニズムなどの医学をできるだけ幅広く学ぶ。医療従事者として以外にも、普段の実生活で健康に過ごしていく上で必要な知識や興味深い事柄を授業で紹介していく。解剖学での知識を十分に持った上でビデオ等の教材を使用し更に理解を深める。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題(到達目標)
取得単位数	2単位	医療従事者として、実務上必要な知識や医療の背景の理解を深めることを目指す。
授業担当者	小林 涼	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	シンプル内科学 改訂第2版(南江堂)、 からだが見える 各巻(MEDIC MEDIA)	
評価方法	授業態度、出席率、定期試験による総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	感覚器	感覚器系疾患について学ぶ
2	脳、神経系	脳、神経系疾患について学ぶ
3	消化器	消化器疾患について学ぶ
4	肝胆臓、乳腺、内分泌	肝胆臓、乳腺、内分泌の疾患について学ぶ
5	内分泌、腎泌尿器	内分泌、腎泌尿器の疾患について学ぶ
6	腎泌尿器、整形外科	腎泌尿器、整形外科の疾患について学ぶ
7	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科の疾患について学ぶ
8	循環器	循環器の疾患について学ぶ
9	運動器	骨、関節、筋原性疾患について学ぶ
10	小児科	小児特有の疾患について学ぶ
11	老化	高齢者の診断、特有の疾患について学ぶ
12	感染症	感染症について学ぶ
13	遺伝	遺伝子異常について学ぶ
14	まとめ、問題解説	今までのまとめと、テスト問題集の一部を解説する
15	筆記試験	筆記試験を行う。

シラバスデータ		
科目名	病理学	
年度	2025年度	授業の目的・ねらい
学科	視能訓練士学科	・疾患の理解を深めるために、分子・細胞レベルでの病態・生理について学ぶ。
学年	1学年	
コース	—	授業全体の内容の概要
開講時期	後期	・視機能療法の実践に必要な各種疾病の病因、病態、病理を理解するとともに、各疾病の病態や診断の把握に必要な基本的知識を学習するとともに回復の過程を理解する。 ・代謝異常症、循環障害、炎症、免疫、腫瘍などを中心に学習する。
授業回数	15回	
授業形態	講義	授業修了時の達成課題（到達目標）
取得単位数	2単位	・人体の組織、細胞障害とその修復について理解する。 ・代謝障害、循環障害、炎症、免疫、腫瘍について理解する。 ・各臓器の主な疾病とその症状について理解する。 ・国家試験レベルの事項とともに、チーム医療を担う医療人としての基礎的能力を習得する。
授業担当者	小林 涼	
実務家教員	×	
使用テキスト 参考文献	看護学講座 専門基礎 病理学 疾病の成り立ちと回復の促進1・2(医学書院)、シンプル病理学 改訂第8版(南江堂)	
評価方法	授業態度、出席率、テストによる総合評価とする。	
コマシラバス		
90分/コマ	テーマ	内容
1	健康、疾病	健康の定義や国際疾病分類について学ぶ
2	概論、遺伝子異常	病理の基礎及び、遺伝子異常による疾患を学ぶ
3	遺伝子異常、先天性疾患	遺伝子異常の疾患と発達過程の異常による疾患を学ぶ
4	細胞障害、障害因子、代謝障害	細胞障害とその原因、代謝障害の疾患を学ぶ
5	代謝障害、循環障害	代謝障害、循環障害による疾患を学ぶ
6	炎症	炎症について学ぶ。
7	腫瘍	腫瘍の定義と分類について学ぶ
8	病原体1	病原体について学ぶ
9	病原体2	病原体について学ぶ
10	腫瘍各論	癌に関して代表的な疾患について学ぶ
11	公害病、栄養障害	公害による疾患、栄養障害について学ぶ。
12	神経性疾患	神経障害の疾患について学ぶ
13	膠原病性疾患	膠原病の定義と代表的な疾患について学ぶ
14	外傷	外傷について学ぶ
15	筆記試験	筆記試験を行う。

シラバスデータ			2024/4/1
科目名	キャリア教育		
年度	令和7年度	授業の目的・ねらい	
学科	視能訓練士学科	キャリア教育では、働く意義や職業の考え方から職業人としての心構えを身につける。	
学年	1年		
コース	—	授業全体の内容の概要	
開講時期	前期	今後職業人として活躍するために必要なスキルを身につける。	
授業回数	30回		
授業形態	講義	授業終了時の達成課題(到達目標)	
取得単位数	1単位	・仕事の目的意義、職業人の概念を知り、職業人としての意義、姿勢を知る。 ・職業と社会の関係、位置づけや役割を知り、組織や社会の一員としての責任を知る。 ・社会人常識マナー検定3級の取得を目指す。	
授業担当者	原木伴美		
実務家教員	×		
使用テキスト 参考文献	社会人常識マナー検定テキスト2・3級		
評価方法	授業態度、出席率、課題提出、検定取得状況による総合評価とする。		
コマシラバス			
90分/コマ	テーマ	内容	
1	オリエンテーション	科目の意義、目標を理解し、検定取得を目指す意欲を身につける。 グループワークで授業のアイスブレイクを行う。	
2	社会常識	社会人・ビジネスパーソンとしての自覚をもつこと、キャリアについて理解する	
3		会社組織の成り立ちについて知り、仕事をするために必要な力について理解する	
4		ビジネスでの社会変化について理解する	
5	仕事と成果	仕事における目標の重要性について知る	
6		主体性と組織運営について学ぶ	
7		ケーススタディ①	
8	確認問題	社会常識、仕事と成果の領域についての練習問題を行ない知識の定着の確認をする	
9	一般常識	ビジネスで使われる漢字の読み書き、四文字熟語やことわざ・慣用句を覚える	
10		ビジネスで使われる基礎用語・基礎知識を覚える	
11		ビジネスにおける計算力について学ぶ	
12	確認問題	一般常識の領域についての練習問題を行ない知識の定着を確認する	
13	ビジネスマナー	職場のマナーについて知ろう	
14		来客対応、電話対応について学ぼう	
15		慶弔マナーやTPO、しきたりについて知ろう	
16		ビジネス文書の取り扱いについて学ぼう	
17		会議について知ろう	
18		情報の適切な管理について学ぼう	
19	確認問題	ビジネスマナーの領域についての練習問題を行ない知識の定着を確認する	
20	検定試験対策	検定試験の概要について説明、過去問題1回分実施 ⇒ 解説	
21		過去問題1回分実施 ⇒ 解説	
22		過去問題1回分実施 ⇒ 解説	
23		過去問題1回分実施 ⇒ 解説	
24		模擬試験を実施	
25		模擬試験の結果を踏まえて、個別に試験対策を実施	
26		模擬試験の結果を踏まえて、個別に試験対策を実施	
27		模擬試験の結果を踏まえて、個別に試験対策を実施	
28		模擬試験の結果を踏まえて、個別に試験対策を実施	
29		授業で学んだ内容を復習し、検定試験に備える	
30	まとめ	検定試験の自己採点を行ない振り返りをする	